

おごせ教育 Pick Up

越生町立小中学校施設等 環境整備について

越生町教育委員会

今月号の「おごせ教育Pick Up」では、夏季授業日中間中に行われた、越生小中学校のトイレ改修や町内小・中学校3校のネットワーク環境整備についてお伝えします。

□越生小学校トイレ改修
長年の懸案事項であった越生小学校のトイレですが、念願かなって新しく整備されました。

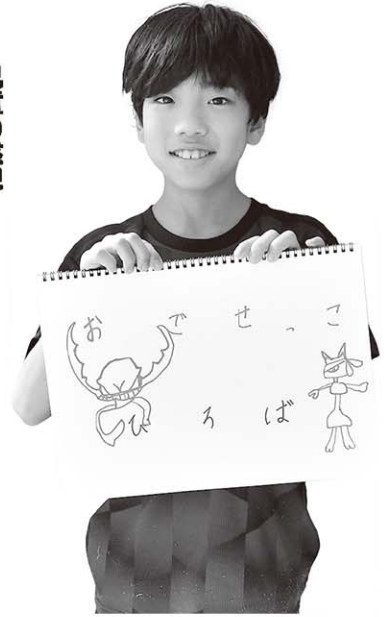
一ヶ月ぶりに越生小学校に戻り新しいトイレを目にした児童からは、嬉しい声がたくさん響いてきました。



▶多目的トイレ
(体育館)



▶それぞれ違う
デザインの入り口
(2F・4F西側)



おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。

「児童の感想」
・「トイレがホテルみたいでびっくりしました！」
・「水が自動で流れるので、便利で使いやすくなりました！」
・「見た目もきれいで臭いもなく、使うのが楽しくなりました！」



▲使用するのが楽しくなりそうな
手洗い場 (1F 児童用女子トイレ)



▲節水型・自動洗浄式小便器
(1F～4F男子トイレ)

□町内小・中学校3校ネット
ワーク環境と1人1台のPC (パソコン)の整備
今現在、国においては、児童生徒に1人1台の学習用PCの整備と、高速大容量通信ネットワークを一体的に整備する「GIGAスクール構想」を掲げています。越生町も、国の補助を受け、今年の11月を目標に1人1台のPCが整備されます。



▶整備予定の
PC



▶3校の校舎内に
設置された無線
LAN



越生みどり幼稚園

【サツマイモの苗植え】

年長組さんが、園バスに乗って毎年お芋堀をさせていただいている畑に行きました。いつもは、サツマイモを掘る作業のみでしたが、今年は食育も兼ねて、お芋の苗を植えるところから体験しました!!

苗を見た瞬間「これでおいもができるの?」と不思議そうにしていた子どもたち。

広い畑でしたが、さすが年長さん。あつという間に植え終わりました。秋には、年中組・年少組のお友だちもお芋堀にきます。堀ったお芋は園庭で焼き芋大会に使用します。それまでに大きく立派に成長し、おいしいお芋が収穫できますように!



【体操】

毎週金曜日は体操教室の講師の先生をお招きしています。楽しみながら体を動かすことを目標に、マット、跳び箱、鉄棒など、年間を通して様々なカリキュラムを組んでいます。先生のちょっとした補助やアドバイスで縄跳びが跳べるようになったり、逆上がりができるようになったり、できることが増えると、自分に自信が持てるようになりますね。

子どもたちも元気で、楽しい体操の先生が大好きです。

越生浪漫

No. 140

渋沢平九郎 と 飯能戦争

彰義隊と振武軍

尾高平九郎が幕臣・渋沢栄一の養子となつて、下手計村(現深谷市)から江戸に出府してきたのは、慶応3年(1867)10月のことでした。同月には大政奉還が、12月には王政復古の大号令が発せられ、徳川幕府は崩壊、新政府が成立しました。翌年2月、朝敵となつた慶喜の汚名をそそぐことを目的とした「彰義隊」が結成されます。頭取は、平九郎の従兄弟で一橋家家臣の渋沢成一郎(喜作)です。

平九郎は「第二青隊伍長」(『彰義隊戦史』)に任命されましたが、のちに隊を離脱し、成一郎を隊長とする「振武軍」に参加します。平九郎は右軍頭取、兄の新五郎(惇忠)は中軍の将につきましました。

飯能戦争

5月1日

振武軍、田無村(現西東京市)に屯集。

5月12日

田無から箱根ヶ崎村(現瑞穂町)に入り本陣を置く。

5月中旬

平九郎、斥候として田無村新宿、四谷など各所に行く(『藍香翁』『彰義隊戦史』)。

5月15日正午

平九郎、箱根ヶ崎本営に上野戦争勃発を報告(『彰義隊戦史』)。成一郎、彰義隊に加勢するため出立するも間に合わず、田無にて彰義隊の残党兵と合流する。

5月16日

二軍に分かれ飯能へ。

5月18日正午



振武軍の本陣が置かれた能仁寺

飯能村の能仁寺に本陣を置く。智観寺、観音寺、広渡寺、心応寺、玉宝寺に駐屯する。

5月22日深夜

笹井村(現狭山市)で佐土原藩(宮崎)・備前藩(岡山)・大村藩(長崎)と銃撃戦を開始するが敗走。

5月23日明け方

野田村(現入間市)にて再び三藩を襲撃するも敗北。双柳村(現飯能市)で筑前藩・筑後藩(福岡)と戦闘。(『特別展飯能戦争 飯能炎上―明治維新・激動の6日間』より引用・加筆)。惇忠の『渋沢平九郎昌忠伝』によれば同刻平九郎は成一郎とともに能仁寺から出陣し、飯能の東方で新政府軍と合戦しています。しかし相手の兵力に圧倒され、振武軍は敗走しました。

能仁寺の「振武軍碑」

能仁寺の境内には、尾高豊作撰書の振武軍碑「唱義死節」が建立されています。



振武軍碑「唱義死節」

「振武軍建碑」

従四位子爵渋沢敬三題額

明治元年一月三日鳥羽伏見の戦敗れ前將軍徳川慶喜公江戸に還るや、麾下の舊臣悲憤激昂し物情騒然たり。濞澤成一郎、天野八郎、本多敏三郎等乃ち相謀り尊王恭順有志會を組織して將に大に成す所あらんとし、隊を編して彰義と號し上野東叡山に拠る。偶々首領の間、方略の意見相合はず、是に於て濞澤成一郎等は天野等一派と分れ、其族尾高惇忠、濞澤平九郎等と別に一隊を組織し江戸の西郊田無村に屯せり。之を振武軍と稱す。五月十五日上野彰義隊の敗報傳はるや、振武軍亦走つて飯能に到り能仁寺を以て本營と為し、徐に後圖を講ぜんとす。既にして官軍の軍監尾江四郎左衛門、鹿兒島、福岡、大村等諸藩の兵を率ゐて川越城に入り部署を定め、二十二日三面より來り攻む。交戦二晝夜兵火全市を蓋ふ。振武軍の本營亦火を發し、將士或は死し或は逃る。參謀濞澤平九郎状貌魁偉(※顔つき、体つきがたくましくて立派なさま)武技に長ず。單身奮闘を衝いて走

り黒山村に至る路塞りて通せず、遂に此處に自刃せり。嗚呼、尾高惇忠は予の祖父たり。平九郎は祖父の弟にして濞澤青淵翁の義子たり。濞澤成一郎亦祖父の従弟たり。當年の事、予豈之を言ふに忍びんや。抑々彰義振武兩隊の挙たる其跡、自ら順逆の大義を誤れるに似たりと雖も素より王師(※官軍)に抗し私を為す所以に非ず。諸士皆年壯氣鋭にして、唯其事ふる所に忠ならんとする一片歌々の念、已む能はずして此に至れるものなり。而して前途大に為すあるの身を以て空しく命を砲煙の間に殞す。其志洵に哀むべし然りと雖も今や皇運隆昌稜威赫々として八紘に輝き、徳川氏一門亦皆頭要に列し蹇々として聖化を贊く。諸士の幽魂泉下に知るあらば、當に以て瞑すべきなり。頃者飯能の郷人碑を天覧山の麓に樹てて振武軍の事蹟を不朽にせんとし、文を予に囑せらる義、不文を以て辭すべからざるものあり。乃ち筆を執りて其梗概を叙すと云。昭和十二年五月二十三日 尾高豊作撰並書 裏に發起人と後援者名が刻まれています。